



北消防団
長尾支団 第3分団

大北 進一 さん

〔執筆〕 北消防団長尾支団 本部
分団長 流田 時夫
わが長尾支団が紹介するヒーローは、第3分団1班団員、大北進一君です。やや小柄ながら、がっちりとした体格ときりとした目元は、五月人形の金太郎を連想させます。「気は優しく力持ち」まさに彼のイメージを語るにぴったりの言葉です。そんな大北君が消防団に入ろうと決意したのは、平成4年の秋から翌年にかけて、のどかな長尾町を震撼させた連続放火事件がきっかけでした。

ファイアーマン金太郎

勢を敷いて、連日連夜、警戒パトロールを実施しましたが、その消防団員や自宅のすぐそばで起きた全焼火災を目の当たりにして、「消防団員として地域を守りたい」との思いに駆り立てられ、直ちに入団の意思を伝えましたが、定数を満たしていた分団からは、歓迎の意を受けたものの入団の承諾は得られず、焦る思いを抑え、誘いを待つことになりました。その2年後には阪神・淡路大震災が発生。入団への思いは高まるばかりでしたが、結局入団できたのはさらに5年後の平成12年春のことでした。入団8年目を迎えた今も、その熱意は変わることなく、長尾支団の中堅として大活躍中です。



昨年11月に行われた「神戸市消防団小型動力ポンプ操法大会」において、ファイアーマン金太郎は、マサカリならぬ筒先を担ぎ、重機にまたがって長尾支団管内を飛び出し、今後その活躍の場を広げていくことでしよう。

では、代表チームの1番員として出場。消防団活動に懸ける積年の思いを一気に晴らすかのように練習時の最高タイムを大幅に更新し、見事5位入賞へと導いてくれました。

後日、筒先とホースを自宅に持ち帰り、毎夜黙々と自主トレに励んでいたと聞き、責任感が強く、何事にも真摯^{まじめ}に取り組む、いかにも大北君らしいとあらためて感心させられるとともに、このひそかな努力が報われたことをうれしく思いました。

大北君は、父子で造園業を営んでいます。北消防署管内での災害発生時における「資機材応援体制」作りにも即座に応え、仕事柄所有する重機の提供を申し出てくれました。